

諏訪赤十字病院新型救命救急センターの立ち上げと診療状況

諏訪赤十字病院 救急部

○^{かみじょう}上條 ^{ゆきひろ}幸弘、矢澤 知虎、酒井 龍一、大和 眞史

諏訪赤十字病院は一般病床425床の地域医療支援病院で対象人口は約21万人である。当院での救急車対応は2001年7月から平日時間内のみのホットラインを、2004年9月から常時ホットラインを導入した。また、2006年4月から予約外患者で各科対応ができない場合、救命救急センター内で総合診療科が対応している。時間外患者は2006年9月から夜10時までは病院当直医が、10時以降はホットライン担当医が対応している。こうした中で、長野県の救命救急センター再編成が検討され、2006年12月から救急専門医5名が中心となり全科の協力を得ながら新型救命救急センター（10床）の運用を開始した。救急外来受診者数は2004年10550名から2008年16817名、救急車搬入数は2004年2342から2008年2713、救急入院患者数は2004年2544名から2008年4438名と増加した。2006年12月から2008年8月の救命救急センター受診者（29484名）の入院率は27.5%（8110名）でこのうち24.9%（2020名）がセンターに入院した。救急外来受診数は内科、小児科、整形外科、消化器科の順で、入院数は小児科、消化器科、外科、循環器科の順だった。センター入院数は脳神経外科、外科、循環器科、神経内科、消化器科の順で、病床稼働率は93%だった。初期から専門科の診療が必要な場合は入院時に各専門医に診療を委ね、他は診療に当たった救急医が診療した。救命救急入院料加算算定は初期には30%前後だったが、最近では50%と増加している。総加算点数の50%以上を脳卒中が占め、頭部外傷、循環器疾患、消化器疾患の順だった。各科協力のもと全ての救急患者に対応しているが、センター運用で神経疾患が多いのは、センター開設に際し脳神経外科、脳卒中科、外科の混合病棟のスタッフが中心となり準備を行ってきたこともある。今後は病棟編成を行い、循環器科を中心に対応していく予定である。